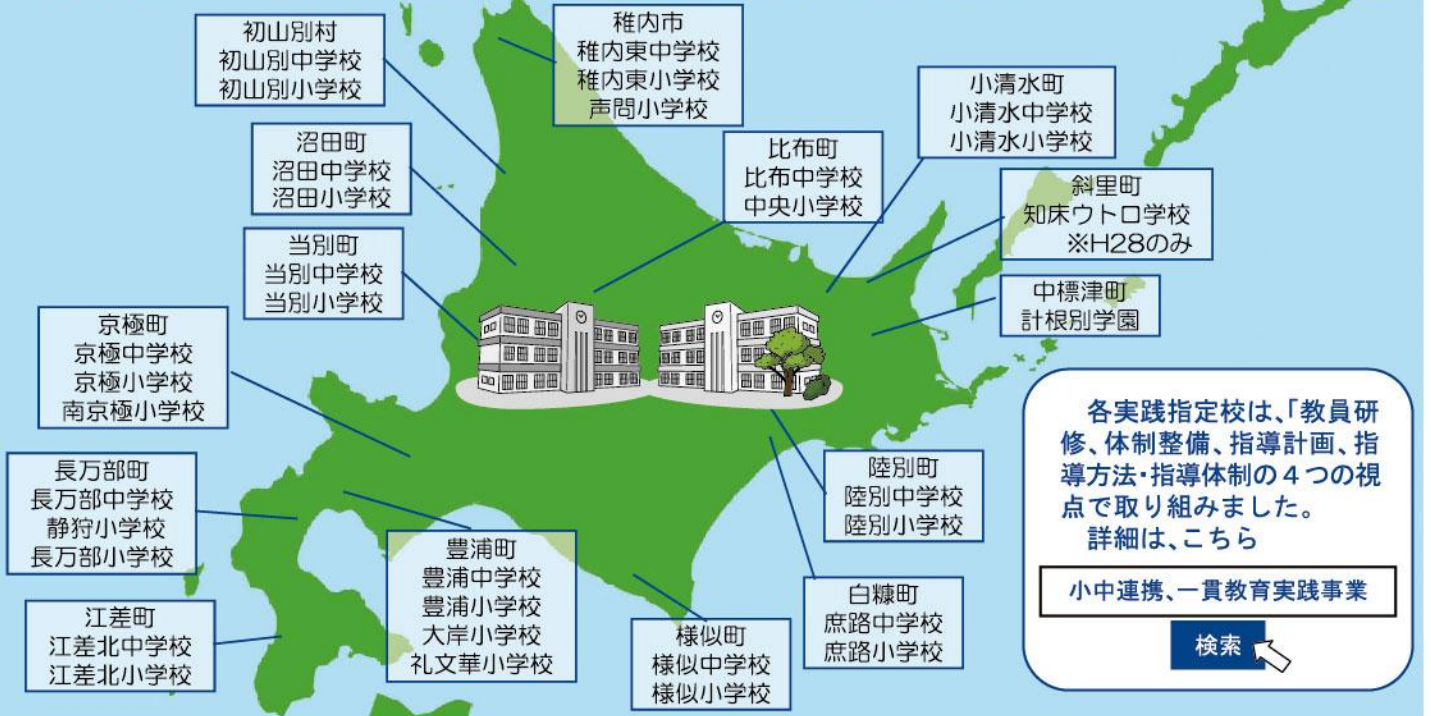


## 小学校と中学校の連携、一貫した取組の推進のために



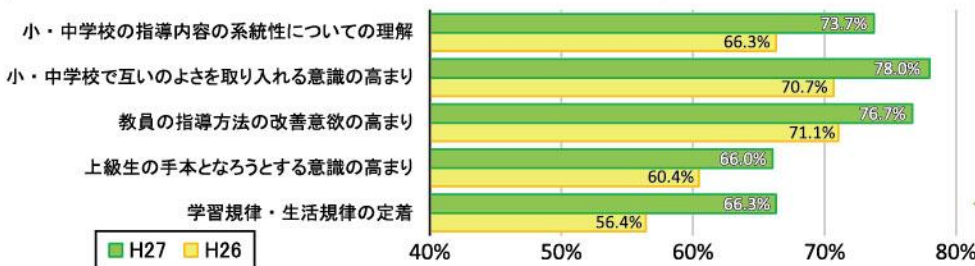
本道では、小・中学校間の円滑な接続や相互の連携を一層促進し、小・中学校9年間を見通した学習指導等を行うことにより、児童生徒の学力向上を図ることを目的に、平成26年度から3年間、14管内、15地域、33校において「小中連携、一貫教育実践事業」に取り組んできました。

### 「小中連携、一貫教育実践事業」実践指定地域・実践指定校



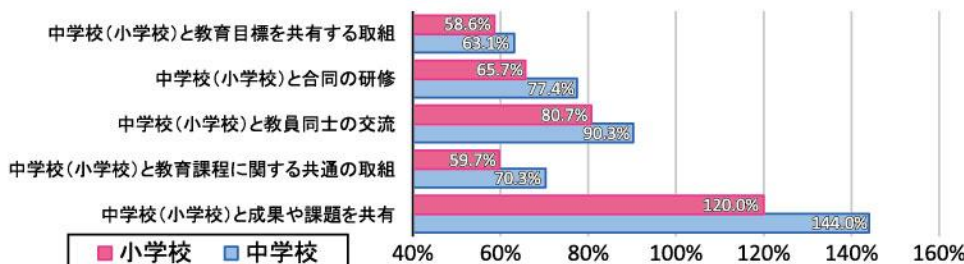
### 小中連携、一貫教育の成果と課題

#### 「小中連携、一貫教育実践事業」実践指定校アンケート



7割以上の教員が、「小中連携、一貫教育は、成果が認められる」と回答。また、教員の専門性の向上や児童生徒の意欲の高まりなどの成果も。

#### 「平成28年度全国学力・学習状況調査」学校質問紙調査(全国を100としたときの割合)



道内全体としては、小中の連携が十分に進んでいない状況。



# 小中連携、一貫教育の取組

「小中連携、一貫教育実践事業」においてまとめた「小中連携チェックリスト」の4つの視点ごとに取組のポイントと参考事例を紹介します。

## ① 教員研修

- 小中合同の研修を行う日を年間の行事予定に位置付けて計画的に実施します。
- 学習規律やノート指導など、系統的な指導を行うテーマを決めて取り組みます。
- 小・中学校の研修テーマや教科・領域等を同じにするなど、共通に取り組めるよう工夫します。

【ノート指導等における目指す児童生徒像の設定】

小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
やすいノート		・わかりやすいノート		・学びに活かせるノート		
点を簡単にメモしながら書く。		・自分の考えを伝え合おう		・自分のために使うノート		
		・自分の考えを伝え合おう		・目的意識をもって聞く。		

課題  
どうしたら比べられ  
(考え)

- ・1分を秒にする
- ・4分間を扉身さ

自分の考え

②の式は正しいのか  
→ 正しい  
理由は、①の式の

【小中合同研修会模擬授業の様子】



## ② 体制整備

- 校務分掌にコーディネーター的な役割を位置付け、円滑な推進に努めます。
- 小中一貫教育を推進する組織を構築し、それぞれの役割を明確にします。
- 家庭や地域の意見を聞いたり、学校から情報発信したりするなど、共に取り組む機運を高めます。

【小中一貫教育を推進するための組織図】



【小・中学校の学習指導部会の様子】



## ③ 指導計画

- 全国学力・学習状況調査等を活用し、現状把握を行った上で、指導計画作成の方針を決めます。
- 指導計画に基づく授業を小中合同で参観し、効果的な指導方法について検討します。
- 指導の状況を客観的なデータで検証し、指導計画の改善に生かします。

【算数・数学科における「比例・反比例」の学習内容の系統表】

		小5	小6	中1
概要		○比例の意味 ○伴って変わる2つの数量の関係と式	○比例と反比例の式、グラフ	○比例、反比例、座標の意味 ○比例、反比例の表、式、グラフ ○比例、反比例を活用すること
比例	定義 A	○一方が2倍、3倍、…になると、もう一方も2倍、3倍、…になる2つの数量の関係を「比例」とするという定義。	○2つの数量xとがyあって、xの値が□倍になると、それに伴ってyの値も□倍になると、yはxに比例するという定義。	○yがxの関数で、 $y=ax$ (aは0でない定数) という式で表されるとき、yはxに比例するという定義。
	式 B	○比例の関係にある2つの数量の関係は、 $\bigcirc \times 4 = \triangle$ など、かけ算で表すことができる。	○比例を表す式 $y \div x = \text{きまった数}$ $y = \text{きまった数} \times x$	○関数 $y=ax$ という式で表す。また、対応するxとyの商 $\frac{y}{x}$ の値はaである。



#### ④指導方法・指導形態

- 小・中学校のそれぞれの指導のよさを生かした相互の乗り入れ指導やチーム・ティーチングにより、小・中学校の円滑な接続を図ります。
- 小学生の中学校登校日を設けるなど、乗り入れ指導をしやすい環境を整備します。

【小・中学校教員によるチーム・ティーチングの様子】



【小学校6年生の中学校登校の様子】



### 小中一貫教育に関する制度の類型

小中一貫教育の制度化に係る改正学校教育法及び関係政省令・告示が平成28年4月に施行されました。小中一貫教育の制度化においては、大きく2つの形態があり、一つは、一人の校長の下で一つの教職員集団が一貫した教育課程を編成・実施する9年制の学校で教育を行う形態である「義務教育学校」、もう一つは、組織上独立した小学校及び中学校が義務教育学校に準じる形で一貫した教育を施す形態である「小中一貫型小学校・中学校」です。

小中連携教育:小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

小中一貫教育:小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

		義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校
			中学校併設型小学校 小学校併設型中学校
設置者		—	同一の設置者
修業年限		9年（前期課程6年＋後期課程3年）	小学校6年・中学校3年
組織・運営		一人の校長、一つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織
			小学校と中学校における教育を一貫して施すためにふさわしい運営の仕組みを整える
免許		原則小学校・中学校の両免許状を併有	所属する学校の免許状を保有していること
教育課程	一貫教育に必要な独自教科の設定	○	○
	指導内容の入替え・移行	○	○
施設形態		施設一体型・施設隣接型・施設分離型	
設置基準		前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準、中学校には中学校設置基準を適用
設置手続き		市町村の条例	市町村教育委員会の規則等



# 小中連携チェックリスト

「小中連携チェックリスト」は、道内外の先進事例を踏まえ、小・中学校が連携した取組を進める上で求められる事項を、①教員研修、②体制整備、③指導計画、④指導方法・指導形態の4つの視点からまとめたものです。本チェックリストを活用することで、取り組むべき事項やさらに充実すべき事項を明らかにし、小・中学校が連携した取組を充実できます。

## ①教員研修

- 義務教育9年間で児童生徒に育成したい力を明確にし、小・中学校間で共有しているか。
- 学力にかかわる共通課題等を明らかにし、小・中学校間で共有しているか。(全国学力・学習状況調査やC R T検査、チャレンジテスト等の結果を分析)
- 小・中学校間で共通の研究主題、目指す児童生徒像、授業像を明確にし、共有しているか。
  - 9年間の系統性を明らかにした学習規律に関する指導
  - 9年間の系統性を明らかにしたノート指導
  - 9年間の系統性を明らかにした板書の在り方
- 小中合同の研修会を計画的、継続的に実施しているか。
- 小・中学校それぞれの指導の特徴やよさを互いに交流する機会を設定しているか。
- 成果を検証する方法を明確にし、小・中学校間で共有しているか。
  - 全国学力・学習状況調査やC R T検査、チャレンジテスト等の結果の推移を分析するなど、具体的に成果を検証
  - 教職員、児童生徒、保護者等へのアンケート結果の推移等を分析し、成果を検証

## ②体制整備

- 小・中学校間で、互いの学校教育目標を理解しているか。
- 義務教育9年間の系統性を明らかにして学校教育目標を見直しているか。
- 小・中学校間の乗り入れ授業や、小学校における教科担任制などの具体的な取組を進めるための体制を整備しているか。
- 小中合同の委員会等を設置しているか。
  - 定期的な開催
- 学力向上に資する小中連携の取組を学校運営計画や学校改善プランに位置付けるなど、学校経営の重点としているか。
- 担当教員や研修担当教員など関係教員間で、定期的に協議等を行う機会を設定しているか。
- 取組状況をホームページに掲載しているか。
- ホームページの相互リンクを行っているか。

## ③指導計画

【Plan】

- 義務教育9年間の系統性を明らかにした指導計画を協力して作成しているか。
  - 系統性を明らかにした年間指導計画の作成
  - 小学校第6学年と中学校第1学年の系統性を明らかにした年間指導計画の作成
  - 系統性を明らかにした指導内容の系統表の作成
  - 系統性を明らかにした単元配列一覧表の作成
- 年間指導計画に個に応じた指導を位置付けているか。
  - 振り返り学習や繰り返し指導
  - 補充的な学習や発展的な学習
  - ティーム・ティーチング
  - 習熟の程度に応じた指導

【Do】

- 義務教育9年間の年間指導計画に基づき、実践を行っているか。

【Check】

- 義務教育9年間の年間指導計画を実践に基づき評価しているか。
- 年間指導計画を評価する観点を明らかにしているか。
- 年間指導計画の評価結果を小・中学校間で共有しているか。
- 全国学力・学習状況調査やC R T検査、チャレンジテスト等の結果を活用し、具体的に指導計画の検証を行っているか。

【Action】

- 評価結果に基づき、年間指導計画を改善しているか。
- 義務教育9年間で児童生徒に育成したい力を明確にし、小・中学校間で共有しているか。

## ④指導方法・指導形態

- それぞれの学校種のよさを生かした授業を計画的、継続的に実施しているか。
  - 中学校教員の専門性を生かした小学校への乗り入れ授業
  - 小学校教員による中学校でのティーム・ティーチングなど少人数指導の支援
- 小・中学校教員相互の乗り入れ授業の効果を検証しているか。(全国学力・学習状況調査やC R T検査、チャレンジテスト、アンケート等の結果を活用し、具体的に検証)
- 小学校における教科担任制を導入しているか。
  - 小学校で教科担任制を導入する教科への中学校教員の専門性の活用
  - 一部の教科や重点とする内容にかかわる単元
  - 加配教員や専科教員の活用
  - 学年内教科担任制の実施
  - 学年や学年ブロック内での交換授業
- 小学校における教科担任制による授業の効果を検証しているか。(全国学力・学習状況調査やC R T検査、チャレンジテスト、アンケート等の結果を活用し、具体的に検証)
- 乗り入れ授業や教科担任制を円滑に推進するため、時間割や日課表を工夫しているか。
- 個に応じた指導を充実するための体制を整備しているか。
  - ティーム・ティーチング
  - 加配教員による指導
  - 習熟の程度に応じた指導
  - 放課後や長期休業中の補充的な学習サポート
- 全国学力・学習状況調査やC R T検査、チャレンジテスト等の結果を活用し、具体的に成果の検証を行っているか。